

(様式)

会議議事録

会議名	2022 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2022 年 7 月 22 日（金）14：00～16：00
場 所	本校 1 階会議室
出席者 （敬称略）	① 企業等委員：戸嶋哉寿男委員（杉並定期巡回連絡会代表）、丸山泰一委員（社会福祉法人池上長寿園専門参与）（計 2 名） ② 本校委員：橋本正樹（校長）、松田 朗（介護福祉科学科長）、中嶋純也（介護福祉科教員）（計 3 名） ③ 事務局：土屋瑠美子（参加者合計 6 名）
欠席者	宮下明久（事務局参与）
配付資料	① 事前送付：□資料 1：2022 年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、資料 2：2021 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料 3-1：前回委員会以降の主な経過報告、資料 3-2：2021 年度就職状況の報告、資料 3-3：第 34 回介護福祉士国家試験受験の報告、資料 4：2022 年度重点目標と達成するための計画・方法、資料 5-1：2022 年度介護福祉科学科運営計画方針、□資料 5-2：2022 年度介護実習予定表、□資料 6：2022 年度教員研修計画・実績（介護福祉科）、資料 7：2023 年度カリキュラムマップ案
議 長	松田学科長
議題等	1. 事務局より今年度委員の確認（資料 1） 事務局より、今年度委員の紹介があった。 2. 校長挨拶 新型コロナウイルス感染症については、第 7 波とも言われており、引き続き予断を許さない状況が続いている。一方でウィズコロナからアフターコロナに向けて、様々な場面で日常生活を取り戻そうとする社会的な動きも出てきた。 そのはざままで思い悩みながらも、本校は必要に応じて適宜オンライン授業を組み込む教育体制を整える一方で、感染防止対策だけでなく、熱中症予防にも配慮しつつ、学生を登校させての対面授業を実施している。 この夏以降もしばらくは実習等を含めて難しい教育上の問題が様々出てくると思うが、委員の皆様には、福祉分野の仕事の現在と将来、また本校の介護福祉科のカリキュラムについて専門家の視点からのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。 3. 前回委員会議事録の確認（資料 2） 事務局より修正事項等について意見を求めたところ、訂正の申し出があり、修正後の議事録を公開することが了承された。

	4. 2021 年度の活動報告等 ・ 前回委員会以降の主な経過（資料 3-1～3-3） 資料 3-1～3-3 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 5. 2021 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 4） 資料 4 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 6. 2021 年度学科教育と学科運営（資料 5-1～2） 資料 5-1、5-2 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 7. 2022 年度教員研修計画・実績（資料 6） 資料 6 に基づき説明が行われ、確認、了承された。 8. 2023 年度カリキュラムマップ案（資料 7） 資料 7 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 9. 次回日程、その他 次回の日程について協議し、2023 年 2 月 27 日（月）15 時より開催することが確認され、閉会した。
--	---

以上

2022 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2021 年度の活動報告等

前回委員会以降の主な経過

松田学科長より、資料 3-1～3-3 に基づき以下の報告が行われた。（詳細は省略）

＊資料 3-1：(1) 2021 年度 退学の状況、(2) 2021 年度 就職内定状況、(3) 2022 年度 在籍状況

＊資料 3-2：2021 年度就職状況の報告

＊資料 3-3：第 34 回介護福祉士国家試験受験の報告

○委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
☐ 1 人の退学者は日本人の本科生か。 ☐ 早い段階で気づいて、進路変更をしたほうがお互いに幸せかもしれない。可能性を信じて育てていくことはすばらしいと思う。 ☐ クラスの全体的な雰囲気はどんな感じか。 ☐ 今年の国家試験の難易度はどうだったか。	☐ 日本人の本科生である。 学校としては、学生募集が厳しい中で、問題を抱えている学生も入学してもらい 2 年間で育てたいという思いがある。どうしてもついていけない学生は退学も致し方ないと考えている。 ☐ 1 年生は、それぞれ自由な時間を過ごしている感じで、落ち着いていると思うが、高校新卒者が増えたので固まったときはキャピキャピした雰囲気がある。 ☐ 2 年生は、お互いにいい距離感で、まとまりはある。基本的にはまじめで、きちんとやろうという気持ちを持っている学生が多く、静かでおとなしい感じに映るかもしれない。 ☐ 全体の印象としては、それほど難しいという感じではなかった。第 35 回の試験から少し内容が変わるので、どう影響するか注意したい。

5. 2022 年度重点目標と達成するための計画・方法（資料 4）

橋本校長より資料 4 に基づき以下の説明が行われた。

(1) TPC の育成と強化

・専門分野の学びに加え、社会人化に必要な能力として（T：Think＝考える力、P：Positiv＝積極性、C：Communication＝対話力）の育成強化を全学科で進めている。

(2) 新たな入学者層を対象とする教育プログラムと学びのサポートプログラムの開発

- ・通信制の卒業者や社会人、外国人受け入れのためのサポートプログラムを充実させて募集の強化に努めている。

(3) 入学者定員の充足

- ・募集目線ではなく、学生たちが学びの楽しさや魅力を感じるような工夫を凝らしていく。

○委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□オンラインが有効な授業には、どのようなものがあるのか。	□検定（資格）試験対策には効果がある。 オンラインは個別支援に有効だと実感している。

6. 2022 年度学科教育と学科運営（資料 5-1、5-2）

○松田学科長より資料 5-1 に基づき以下の補足説明が行われた。

- ・学校生活の中で日本語を使ったり、日本の文化や生活習慣に触れる機会を多くする取り組みとして、6 月から昼休みに「留学生サロン」を設けた。留学生だけでなく、他学科の学生も含めておしゃべりを楽しんでいる。
- ・業界の人材ニーズの動向として、利用者さんを大切にできる人、多様性を受け入れ、共有・協働できる人、創造性を発揮できる人（レクリエーションが担当できる人：楽しむ時間がつくれる人）、挑戦できる人、「介護予防ができる介護福祉士」の養成（特に民間事業者のニーズが高い）、「障がい者支援」特に「重度障がい者支援への関心が持てる介護福祉士」の養成を掲げた。
- ・「知るから解るへ。解るからできるへ」を目指して、学習に取り組んでいる。
- ・学生の学習環境、生活環境、社会性は一人一人違う。学習支援をしていく上で、その多様性に適応することを私たちの課題として捉えている。
- ・学生が学びを諦めることのないよう、日頃からアンテナを張りめぐらせて、わずかな変化も見逃さないようにしている。
- ・選ばれる学科、選ばれる授業を意識し、学生に学ぶ喜び、何かを成し遂げていく楽しさを与えていくことを大事にしたい。
- ・「わからないままにしない」学習支援として、カリキュラムマップを作って学びの全体像を捉えてもらう取り組みをしている。
- ・学生・卒業生・就職先との一元化として、オープンキャンパスなどを最大限活用して、いろいろな人と関われるプラットフォームを作りたいと考えている。
- ・退学防止に関しては、教員間で日頃から情報を共有し、適宜個人面談を進めていく。
- ・年間スケジュールは、月別にイベントや実施している内容を整理したものである。

○中嶋教員より資料 5-2 に基づき 2022 年度介護実習予定表に関する報告が行われた。

- ・介護実習Ⅰ（第 1 段階介護実習）は、12 日間で、1 年生全員が終わることができた。
- ・コロナの陽性者が増えているが、介護実習ⅢとⅣは今のところ確保できている。
- ・コロナ禍以後、実習の時期が大分ずれてしまい、在宅介護、特に訪問介護が設定できない状況が生まれたことや 1 年生の第 2 段階の実習の前倒しなどが大きな課題となっている。
- ・ストレスや疾患で実習に行けなくなり、学内実習を初めてやったが、実習の質に差が生じること

が今後の課題かと思う。

・実習受入れ側のPCR検査、ワクチン接種への対応が様々であり、打たなくても受入れ可能な施設の獲得が必要になってくるかと思う。

○委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□私のほうから、施設の面会基準と受入れ基準について伺いたい。	□面会基準は東京都の段階に合わせて作っている。コロナで家族も居室に入れないところが多い中、実習生を受け入れないと養成もできないので、うちの法人に来てくれるならという条件で受入れている現実もある。 私自身、ケアマネを担当していながら2年間利用者に会っていないケースもあり、実習生と一緒に回れるところは限られてしまう。全く受け入れできないわけではないが、人材確保のルートも作りたいので、在宅に興味のある人に絞っている。
□ご自宅に行く体験は大事だと思っているので、来年度、コロナの状況が改善していることを期待して話を深めさせていただければと思う。	
□「介護予防ができる介護福祉士」の特に民間事業者のニーズが高いというのは、そうなのか。	□介護を母体としない法人が介護業界に入ってくる中で、健康寿命を長くすることを売りにする事業者が結構いる。私たちの専門性を出すためにも、介護の専門性を前面に出した予防をアピールすることは重要だと思う。
□行政も給付抑制のために予防に力を入れようとしている。	
□何かをやってあげることが介護ではないという視点を持つことが、介護予防につながる。私たちも訪問介護のときはやってあげることが当たり前だったが、定期巡回を始めてからは、自立支援と介護予防に意識が行くようになった。	□お客様もケアマネもやってくれるのは当然だと考えるから、意識を変えるのは職員からだと思うが、中には私がやりたかった介護と違うという感じで離れていくこともある。

松田学科長より資料6に基づき報告が行われた。(詳細は省略)

8. 2023年度カリキュラムマップ案(資料7)

松田学科長より、資料7に基づき、以下の説明が行われた。

- ・23～24年度については、よりディプロマ・ポリシーを達成できるよう、社会情勢に合った内容を意識して手を加えている。
- ・2年生で「生きがいと地域社会」が新設される。生きがいを生む支援という視点で、コミュニケーション的な要素が増えるものと思う。
- ・居宅も含めて、地域包括ケアの本質を捉えてサービスが提供できることと、介護職のソーシャルワーク的な視点を広く持つことを意識している。
- ・いろいろな人と意見交換をしながら、よりよいものを作っていく「最適解思考」をカリキュラムのすべてに落とし込んでいきたい。
- ・実習については、第1段階を30時間減らして、地域に出ていく第4段階を30時間増やすことを試みている。
- ・「介護福祉事務」は、現場や学生の実態に合わせて見直しをする。
- ・一回2コマ3時間ぐらいの特別講座を展開し、介護の楽しさを味わえるような学習機会を増やしたい。
- ・地域課題への取組として、豊島区と近隣の新宿区で、地域間の課題に学科として協力するという形で手を挙げてつながりを作り、学生もそこに入っていくような流れを作りたい。

○委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
☐介護ニーズだけではなく、コミュニティワーク、ケースワークも含んだソーシャルワークを介護福祉に詰め込もうという試みだと思う。ぜひ応援したい。 学校が地域に出て、その中でコミュニティワークを学ぶのもすばらしい。生活が分からなければ高齢者の理解はあり得ない。 ☐いろいろ広がっていくことを楽しみに思う。この仕組みは年々成長していくような感じがする	☐地域に入っていくことで、自然と体感できると思う。言うのは簡単だが、やるとなると大変なことが多いと思うので、お力添えをぜひお願いしたい。

以上